言語文化分科会・提言　冬の学習会資料

「具体」と「抽象」を起点とした、“知識”の獲得
―学年・分野を見通した系統的な学習活動を通して―

札幌市立真栄中学校　遠藤　翔太

１.「具体」と「抽象」の使いどころ

提言者の山田先生の「具体」と「抽象」の話を受けて、「具体」と「抽象」の定着の授業を考えたことが今回のはじまりである。「具体」と「抽象」は第２学年から学習するものではあるが、第１学年でも有効にはたらく場面は多くあると考える。以下は第１学年の指導要領から「具体」と「抽象」に関係のあるものを抜粋したものである。

話すこと・聞くこと	(1) ア	目的や場面に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を整理し，伝えあう内容を検討すること。
		→材料を整理する際に、多くの具体を抽象で捉えて関連付けたり分類したりする。
	(1) エ	必要に応じて，記録したり質問したりしながら話の内容を捉え，共通点や相違点などを踏まえて，自分の考えをまとめること。
		→共通点や相違点を考えることや、自分の考えをまとめる際に具体と抽象を往還する。
	(1) オ	話題や展開を捉えながら話し合い，互いの発言を結び付けて考えをまとめること。
		→まとめるときに共通点を探して具体を抽象化する。
書くこと	(1) ア	目的や意図に応じて,日常生活の中から題材を決め，集めた材料を整理し,伝えたいことを明確にすること。
		→上記同様
	(1) イ	書く内容の中心が明確になるように,段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えること。
		→段落の関係性の理解を深めるために、具体段落と抽象段落で関係性の理解を深める。
	(1) ウ	根拠を明確にしながら,自分の考えが伝わるように工夫すること。
		→根拠として具体をあげるが、考えが伝わるためにはある程度抽象化して、主張につなげる必要がある。
読むこと	(1) ア	文章の中心的な部分と付加的な部分,事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え,要旨を把握すること。
		→文章の中心と付加的な部分を捉えるために具体と抽象を利用できる。
	(1) エ	文章の構成や展開,表現の効果について,根拠を明確にして考えること。
		→構成や展開、意見を伝えるために根拠を扱うことは、具体と抽象が利用できる。

上記のように、「具体」と「抽象」は**三つの分野にまたがっている**ことがわかる。中でも、**何かをまとめたり、整理したり**することや、**文章の構成・展開における段落の関係性（根拠と主張）の理解を深める**うえで、「具体」と「抽象」の概念は大きく役に立つものである、と考えられる。

したがって、思考・判断・表現を指導する際に割と軽視されがちな**「知識」に重点を置き、中でも「具体」と「抽象」を主とした授業を展開（学年・分野）することで、生徒が多くの学習活動でより考えを深めたり、表現したりすることができるではないか**、という仮説をたてた。

２.「具体」と「抽象」の悩みどころ

これだけ多くの分野と関係が広いところではあるが、「具体と抽象」は平成２９年版指導要領から出てきた言葉であるため、**先行研究が少ない**状態である。また、活用できる場面が多岐にわたるため、**学習を終えて、「こんなことができるようになった！」、「具体と抽象には、こんないいことがある！」がイメージしにくい**ように思う。しかし、**概念だけを習得しても次への系統性がないことは避けるべきであるため、それを活用できる“知識”の習得**を目指したい。したがって、学習した知識をもって何かの課題が解決できること、もしくは活用できる場面や知識の効果の考えを生徒自身がもてることが必要となる。

３．生徒の課題意識

今回は中学１年生での実践内容である。「具体」と「抽象」は第２・３年から指導事項に含まれるものであるが、先述したように**中学１年生から学習をすることで、多岐にわたる学習場面での学びの深まりにつながる**、と考えたためである。

また、最近授業で書いたレポートを読んでいて、「意見」と「事実」の関係性を考えて書くことができない、ということに気が付いた。併せて、日常の学習で、文章の構成や展開への理解が今一歩であることが課題であった。**「具体」と「抽象」は、具体化された「事実」をもとに抽象化して「意見」（まとめ）を述べる側面**がある。したがって、「意見」と「事実」を捉えることで、「具体」と「抽象」の理解や、文章の構成や展開について理解を深めることができると考えた。

４．小学６年生教材との関係

「情報をつなげて伝えるとき」（光村図書 国語 小６）の中で、情報と情報をつなげて考える場合の図が掲載されている。**具体例との関係性や、複数のものとの共通点の関係性**など、「具体と抽象」の関係性が見られる。中でも、（図１）左ページでは、**まとめの段落について、共通点を考えて書く**、といったものまで用意されている。

また、この教材の後に展開されている「書くこと」の教材、「デジタル機器と私たち」では、情報を集めて提案する文章を書く、というものである。（図２）初め・中・終わりで構成される文章であるが、終わりの内容については教科書の内容だけでは子供たちは書くときに難しいように思う。**まとめの段落は共通点を述べている、のような、「抽象化」の考えを子どもがもつ**ことで、形式ばっていない文章になるのではないか、と考えた。

５．授業の実際

育みたい力
・「意見」と「事実」を理解して、表現できるようになってほしい。
・段落の関係性を通して、具体と抽象における文章の構成・展開の理解を深めたい。
・自分の考えを伝えるため（表現）に、具体と抽象を利用できるようになってほしい。

目標
・原因と結果，意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。［情報（２）ア］
・具体と抽象など情報と情報の関係について理解を深めることができる。［情報（２）ア］

大まかな授業の流れとして、

①「意見」と「事実」を考えて文章を書く。（仮説検証型レポート・意見文）

②「『不便』の価値を見つめ直す」を読むことで「具体」と「抽象」の関係性を捉える。

③はじめに書いた文章をより伝わるものにするために、読むことで得た“知識”を生かして書きなおす。

という流れで行った。これは、**書く→読む→書く、と学習が往還することで、多岐にわたる活用場面を押さえ、学習を終えて生徒が「具体」と「抽象」の“良さ“や“使いどころ“を自覚できるようにしたいためである。**そうすることで、**学習者の達成感をより図ることができるのではないか**、と考えたためである。

〔第１時〕事実と意見のバランス？まとめってなに？

実践課題①　Ⅰ　自ら問題発見・課題設定していくための「問い」を生むための工夫
Ⅲ　自らの表現に対する「問い」＝反省的（reflective）な「問い」を生むための工夫

・生徒は自分の書いた文章に満足していないが、なにが良くないのか認知できていない状態である。そこで、生徒からの「問い」を生み出すために、生徒が自分で書いた文章を「意見」と「事実」で色分けして可視化できるようにした。
そうすることで、生徒は自分の文章のバランスや不足していることをつかむきっかけとなり、「どうすればより伝わる表現になるのだろう」という問いや、自分の文章を良くするために「学習の必要性」をもちながら学習に向かうことをねらった。

以前に書いたレポートを、小学生のために小学校に送ることになったが、内容はあれで問題ないか？と生徒に聞いたところ、「何が悪いかはわからないけど、あれでは満足できていない」という返答があった。そこで、**自分の書いた文章を「事実」＝青、「意見」＝赤、に色分けして、どのくらいの割合になっているのかを見ることにした。**

「～中学校の成績に睡眠は影響するのか～」

①調査の目的ときっかけ

私がこのような調査をしようと思った理由は、入学前に抱いていた疑問が解けたためだ。私が小学６年生のときの中学校に対する不安は「期末・中間テストできるかな」で、だからこそ初めての中間で睡眠時間をけずり、テストに挑んだ。結果はあまり納得がいかない出来だったため、睡眠の働きが勉強に影響することがもとの疑問にひもづいていると分かった。また、経験談を話すことで信じやすさや興味を湧かせられて、今回の仮説について深く知ってもらえることが今回の私のレポートの目標だ。

②調査方法

中学生白書の図や文を参考にする。

③調査結果

これは、中学生白書の学年別、性学年別の睡眠時間の割合だ。見てみると２３時以降に寝る人がほとんどだ。私も２３時以降には寝るようにしているが、今回のテーマである睡眠と成績を関連づけると少し睡眠時間が足りないのではと思った。このことから、２２時から２３時に寝るのが最適だと考えた。

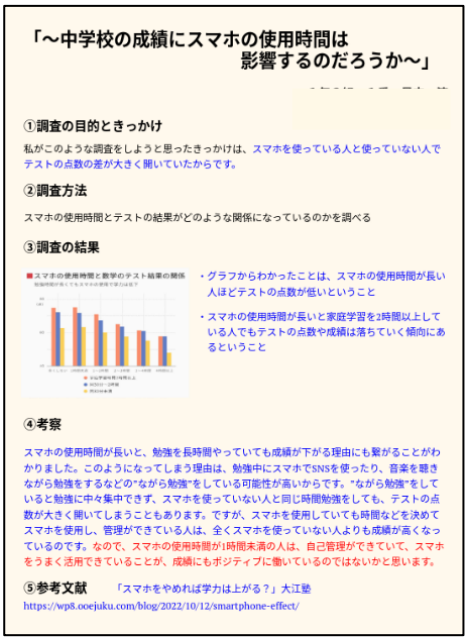
④考察

最適だと思った理由は、私自身が実践してみたテスト期間のことが主な理由だ。近日、後期中間テストがあり、前期の成績を挽回しようとテスト勉強のほかに睡眠を十分に取ることにした結果、勉強によく集中できるようになった。だが、私がとっているのは午後２３時以降から午前７時までの睡眠だ。この時間帯で以下の結果のため、少し時間を増やすだけでも集中しやすくなり勉強が効率よく捗ると考えた。あまり多すぎても生活リズムが狂いやすいため参考程度に私の意見を聞き、自分で調整するのをすすめたい。

⑤参考文献

中学生白書　https://www.gakken.jp/kyouikusouken/whitepaper/j202510/index.html

〈生徒Ａのレポート〉


「～中学校の成績にスマホの使用時間は影響するのだろうか～」

①調査の目的ときっかけ

私がこのような調査をしようと思ったきっかけは、スマホを使っている人と使っていない人でテストの点数の差が大きく開いていたからです。

②調査方法

スマホの使用時間とテストの結果がどのような関係になっているのかを調べる

③調査の結果

・グラフからわかったことは、スマホの使用時間が長い人ほどテストの点数が低いということ

・スマホの使用時間が長いと家庭学習を2時間以上している人でもテストの点数や成績は落ちていく傾向にあるということ

④考察

スマホの使用時間が長いと、勉強を長時間やっていても成績が下がる理由にも繋がることがわかりました。このようになってしまう理由は、勉強中にスマホでSNSを使ったり、音楽を聴きながら勉強をするなどの"ながら勉強"をしている可能性が高いからです。"ながら勉強"をしていると勉強に中々集中できず、スマホを使っていない人と同じ時間勉強をしても、テストの点数が大きく開いてしまうこともあります。ですが、スマホを使用していても時間などを決めてスマホを使用し、管理ができている人は、全くスマホを使っていない人よりも成績が高くなっているのです。なので、スマホの使用時間が1時間未満の人は、自己管理ができていて、スマホをうまく活用できていることが、成績にもポジティブに働いているのではないかと思います。

⑤参考文献　「スマホをやめれば学力は上がる？」大江塾
https://wp8.ooejuku.com/blog/2022/10/12/smartphone-effect/

〈生徒Ｂのレポート〉

結果として出てきたことは、「そもそもどのくらいのバランスで書けばよいのかわからない」ということだった。それに付随して、「『まとめ』は意見なのか事実なのかどっちだろう」という声が上がっていた。全体で確認したところ、**「まとめのようなものをどこに書けばよいのかよくわからない」、「今回書いた文章にまとめはいない」、「そもそも書く必要があるのか」**のような生徒の考えが見られるようになり、自分の表現の不足がなんであるのかをつかみ始めていた。（実践課題①　Ⅰ・Ⅲ）

■自分の文章を色分けした結果、
赤「意見」が多かった。
だから、根拠が伝わりにくくなっている状態（伝わりにくい・課題）となっている。データから分かる事をもう少し伝えていくことで、青が多くなる。それを使えば、もっと赤で伝えられることが増えて主張が強くなり、より仮説が実証できるのではないかと考えた。

〈生徒Ａの分析結果〉

■自分の文章を色分けした結果、
「事実」が多かった。
だから、事実に対しての意見、根拠が（伝わりにくい・課題）となっている。
作文をするうえでやりやすい意見と事実の比率があるかも🤔

〈生徒Ｂの分析結果〉

③今日わからなかったこと
まとめがわからなかった。まとめかはなにかユニットの人にも聞いてみたがイマイチいい意見が出なくてまとめとは最後の文だ。と言っている人もいたけれどまだ最後まで文が書けていない文はまとめがない文ということなのかなと思った。

③今日わからなかったこと
事実と意見のどちらを多く含めば良いのかわからなかった。 まとめとはなにか、まとめをどこに入れれば良いのかがわからない。 事実なのか意見なのかがよくわからない分があった。（具体的な学習場面　作文を事実の意見に分けているとき）

〈授業後の振り返りより〉

〔第2・3時〕「『不便』の価値を見つめ直す」から“意見と事実の使われ方＆まとめの使われ方”を見つける

実践課題案②　Ⅰ　資質・能力ベースで捉えた単元・授業の構成の工夫

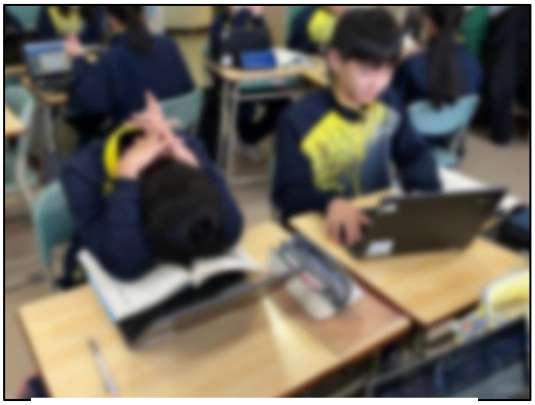
- **教材の文中における「具体」と「抽象」の関係性を「読むこと」で捉えることで、自分が文章を表現する際に伝わる工夫をすることができる。また、今回の実践には含まれていないが、「話すこと、聞くこと」における合意形成につながる「まとめ」の段階で、今回の学習が生きてくる。**
- **２学年、３学年で本格的に「具体」と「抽象」を学ぶ深める際に、今回の学習が生きる。**

書いた文章を良くするために、説明文を題材にして「意見」と「事実」の関係性と「まとめ」の関係性がどのように扱われているのかを分析することとした。分析方法は、**①それぞれの段落を「意見」と「事実」にグループ分けする、②段落同士の関係性を分析すること、③筆者の説明の仕方を分析すること、**の３つである。この３つは生徒たちが考えた分析方法である。

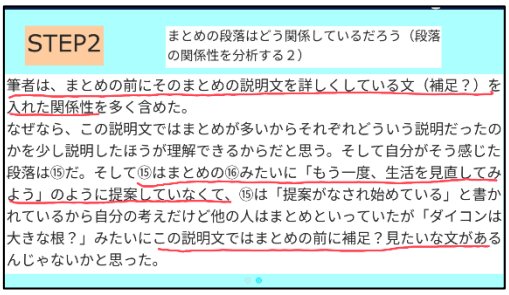
生徒たちは「意見」と「事実」の関係性を早々に捉え、段落の順番などから関係性について理解を深めていた。以前授業の中で、簡易的な具体と抽象の関係を確認したこともあるため、こちらも早く捉えるだろうと考えていたが、**「まとめ」についてはどのような関係性になっているのか捉えるまでに時間がかかっていた。**改めて、概念のみの学習では、生徒の学びにつながらないことを実感した。生徒はこの段階で、「どこがまとめの段落なのか」、「まとめの段落がどのような段落であるのか」、という**「まとめについての考え」が不足**していたことを認知し始めた。

そこで、**まとめとなる段落で使われていそうな接続語**や、**書かれている内容はどんなものが考えられるか**、を生徒に問い、確認した。生徒がまとめと考えたものは、**「このように（な）～」、「つまり～」といった言葉や、内容では、「情報を整理（比較）している」、「要約（簡略化）している」など、**があげられた。その後、該当しそうな段落を全体で確認し、他の段落とどのようなかかわりがあるのかを投げかけた。

起点となるまとめの段落を捉えられたことで、漠然とした状態ではあるが、他の段落との役割から関係性を考える様子や、意見と事実それぞれの段落とまとめの段落の関係性を考える様子が見られた。



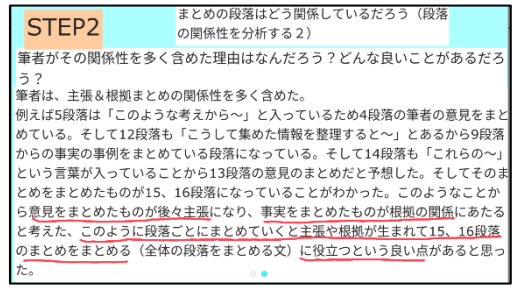
〈頭を悩ませる様子〉



STEP2　まとめの段落はどう関係しているだろう（段落の関係性を分析する２）

筆者は、まとめの前にそのまとめの説明文を詳しくしている文（補足？）を入れた関係性を多く含めた。
なぜなら、この説明文ではまとめが多いからそれぞれどういう説明だったのかを少し説明したほうが理解できるからだと思う。そして自分がそう感じた段落は⑮だ。そして⑮はまとめの⑯みたいに「もう一度、生活を見直してみよう」のように提案していなくて、⑮は「提案がなされ始めている」と書かれているから自分の考えだけど他の人はまとめといっていたが「ダイコンは大きな根？」みたいにこの説明文ではまとめの前に補足？見たいな文があるんじゃないかと思った。

〈まとめと他の段落との関わりについての記述〉



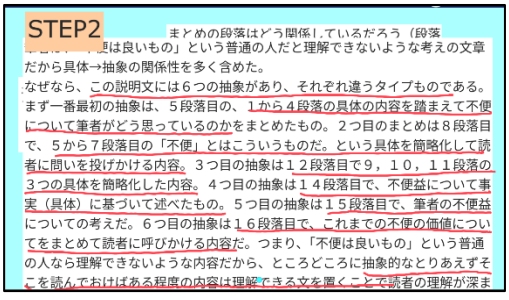
STEP2　まとめの段落はどう関係しているだろう（段落の関係性を分析する２）

筆者がその関係性を多く含めた理由はなんだろう？どんな良いことがあるだろう？
筆者は、主張＆根拠まとめの関係性を多く含めた。
例えば5段落は「このような考えから～」と入っているため4段落の筆者の意見をまとめている。そして12段落も「こうして集めた情報を整理すると～」とあるから9段落からの事実の事例をまとめている段落になっている。そして14段落も「これらの～」という言葉が入っていることから13段落の意見のまとめだと予想した。そしてそのまとめをまとめたものが15、16段落になっていることがわかった。このようなことから意見をまとめたものが後々主張になり、事実をまとめたものが根拠の関係にあたると考えた、このように段落ごとにまとめていくと主張や根拠が生まれて15、16段落のまとめをまとめる（全体の段落をまとめる文）に役立つという良い点があると思った。

〈意見・事実それぞれのまとめ段落との関わりについての記述〉

〔第４時〕**まとめの段落の種類について考える**

「まとめ」の段落と「まとめられている」段落を捉えたことで、具体と抽象の関係なのでは？と考える生徒が増えてきた。また、一言に「まとめ」や「具体」と「抽象」の関係といっても、その中で**細かな違いがあることに気が付いていた。**



STEP2　まとめの段落はどう関係しているだろう（段落

は良いもの」という普通の人だと理解できないような考えの文章だから具体→抽象の関係性を多く含めた。
なぜなら、この説明文には６つの抽象があり、それぞれ違うタイプものである。まず一番最初の抽象は、５段落目の、１から４段落の具体の内容を踏まえて不便について筆者がどう思っているのかをまとめたもの。２つ目のまとめは８段落目で、５から７段落目の「不便」とはこういうものだ。という具体を簡略化して読者に問いを投げかける内容。３つ目の抽象は１２段落目で９，１０，１１段落の３つの具体を簡略化した内容。４つ目の抽象は１４段落目で、不便益について事実（具体）に基づいて述べたもの。５つ目の抽象は１５段落目で、筆者の不便益についての考えだ。６つ目の抽象は１６段落目で、これまでの不便の価値についてをまとめて読者に呼びかける内容だ。つまり、「不便は良いもの」という普通の人なら理解できないような内容だから、ところどころに抽象的なとりあえずそこを読んでおけばある程度の内容は理解できる文を置くことで読者の理解が深ま

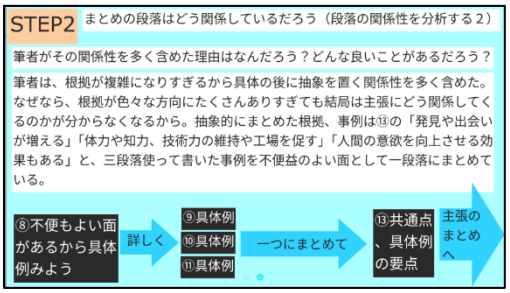
生徒があげていた関係性は、

①３つの段落で事実として書かれた具体が、次の段落につなげるために抽象化されている。

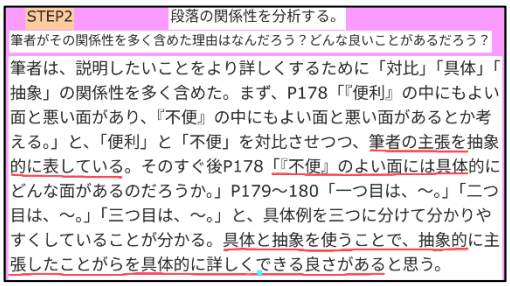
②事実はそもそも具体で述べられることがほとんどで、それらを抽象化したものが主張（意見）である。

というものであった。①については、序論や本論のなかでも見られる関係性であるため、はじめはどんな役割があるのか理解できなかった段落も、この関係性を理解したことで役割についても理解している様子が見られた。②については、「意見」と「主張」の違いについても理解を深めながら、学習をしている様子が見られた。この段階まで学びを深めたことで、生徒は自分とは違う考えをもつ生徒と意見交流をする様子も見られた。

〈悩みが打破され意見交流をしている様子〉



〈①「具体例を抽象化している」記述〉

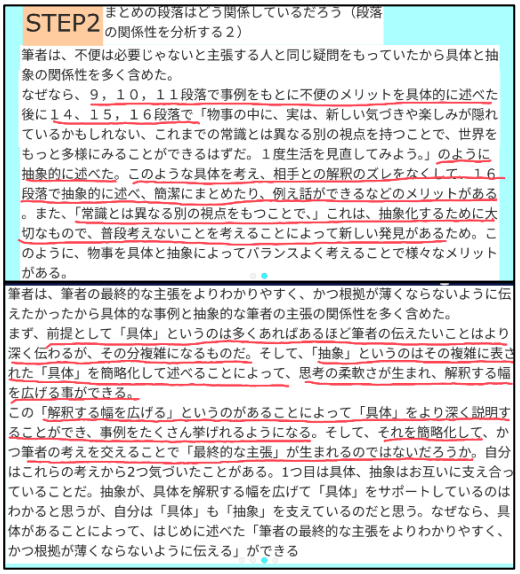


〈②「主張（意見）を抽象化している」記述〉

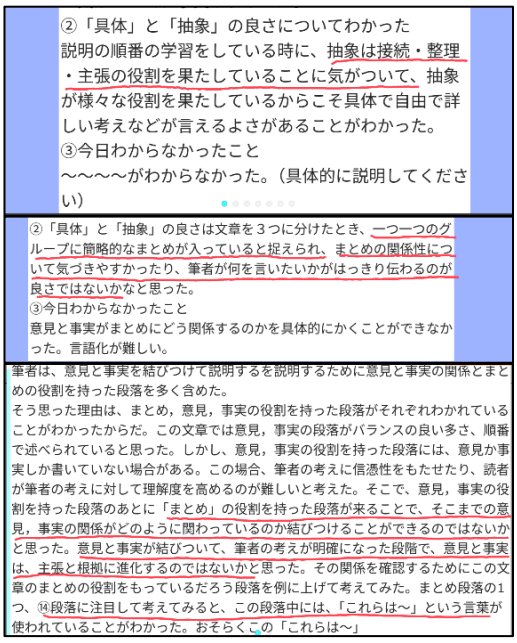
〔第５時〕「具体」と「抽象」の良さとは？

生徒は「具体」と「抽象」の関係を捉えたことで、**自分の書いた文章にどのように使えばよいか**、をもとに効果・良さについて理解を深めていた。

生徒の考える効果・良さとして、抽象化（まとめ）の段落があることで**文章全体の構成や読みやすさにつながっている**ことを挙げる記述や、**相手に伝えるためには具体例を多くする必要があるが、情報が多くなればなるほど複雑化して伝わりにくくなるから、抽象化することで読み手が整理して読むことができる**、などの記述が見られ効果について考えを深めていた。



〈情報を抽象化する良さについて考えていた記述〉



〈文章構成や主張と関わる良さについて考えていた記述〉

〔第６時〕「具体」と「抽象」を使う

現在取り組んでいます。進度が早い生徒の「具体」と「抽象」に対する考えを一部掲載します。

②レポートを書き直してみて考えたこと
以前に比べて、一つ一つの部位の意図を考えるようになった。例えば、④の考察はいわゆる抽象化している段落である。このような、一つ一つの部位の役割や意図を考えることによって文章が整理される。

②レポートを書き直してみて考えたことは、前の自分はまとめを入れていなくて、結局何を伝えたいのかよくわからない文章になってしまっている。まとめを入れないとただ調べたことや自分の考え書いただけのメモみたいなものになってしまうことがわかった。（前の自

②レポートを書き直してみて考えたこと
前回の自分は自分の考えをただ結果に基づいてつらつら述べる抽象的な意見が多すぎたせいで何を考えている・伝えたいかがわからないということがわかったので、今回は具体的な、「この部分についてはこう考えている・こう考えてえいるわけではない・これは良くないと思っている・」などと細かい部分に自分の考えを事実に基づいて書くことが大切だとわかりました。「意見と事実」はバランスが大切だといままで考えていましたがバランスよりも事実に対する具体的な意見を、別の事実を散りばめて書くことで意見を多く文章に含ませても説得力のある文章をかけるのではないかとも考えました。

成果と課題

「具体」と「抽象」を中心に取り扱ってみたが、生徒はその効果や使い方について理解を深めている様子を見ることができた。難しい学習課題に頭を抱える生徒も少なくなかったが、一度関係性について気が付き始めると時間を忘れて取り組むなど、意欲的に学ぶ姿も見られた。なかでも、**今まで役割が良く分からなかった段落について理解することができた**り、**文章の構成や筆者の主張につながる展開について理解を深めることができた**りしたことは、学習者・授業者ともに手ごたえがある。また、「具体」と「抽象」が多くの段落同士の関係性があったことで、自分が見つけた関係性とは違う他の学習者の考えを聞きたい（知りたい）生徒が多く生まれた。そうしたことで、自分の考えと他者との考えの違いや、**表現・説明したものに対する指摘をし合う**など、実践課題①Ⅲの、「自分の表現に対する問い」をもって学習を深めていた。そうしたきっかけにより、**学習者は以前の自分との違いを感じ、学習の成果を実感できた**ように感じた。

実践課題②Ｉの資質能力ベースで単元・授業を捉えることで、生徒は“単なる知識”で終わることなく、多くの学習場面で“学習を深めるための知識”になったと思う。今回でいえば、「読むこと」で得た知識を「書くこと」という別の方法で取り扱うことで、**「読むこと」の側面とは違う具体と抽象を学び取ること**が可能となる。「書くこと」は実際に学習者が表現することでもあるので、「読むこと」とは違った悩みや学習の達成感を得られるはずである。

課題としてあげられることは、学習用語に対する意味を、学習者と授業者で合わせておく必要があること、である。今回は「意見」と「事実」の関係性から「まとめ」について考えていく過程で、「具体」と「抽象」を学んだが、**「『まとめ」という言葉が何を示すのか」について生徒と教師の間で一致していない部分・理解できていない部分**があり、なにをもってまとめとするのか、が曖昧なために混乱してしまう様子が見られた。今回は、授業ごとに理解したことと、わからないことを記述する機会を設けていたため、生徒の学習状況を毎時間ごとに把握することができており、生徒の考えに早く気が付くことができたため、全体で理解を深めることができた。平易な言葉であればあるほど、授業者と学習者の認識の差があるように感じたので、注意したい。

「具体」と「抽象」は概念で学ぶことは易しいが、目の前の国語の学習と結び付けることの難しさを実感した。その反面、きっかけをつかむと、学習者は次々と学習を深められ、実際に使える“知識“になっていったように感じた。特に、今までわからなかった段落の関係性や文章の構成がわかるようになったり、漠然としてわかったつもりになっていた「まとめ」についてわからないことを認知して、学びを深めたりできた点は大きく感じた。授業者は、「具体と抽象」をどのように結び付け、きっかけを作るのかが面白い部分であり、悩ましい部分でもあったが、今回を踏まえた学習者のこれからの学びが、より一層楽しみに感じている。